

❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁
メールニュース5月号 理研バイオリソースセンター実験植物開発室
❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁

このメールは、最近リソースの請求をされた方、技術研修に参加された方、及び展示会等にて実験植物開発室からのメールニュースを希望された方を対象に送信しています。配信不要の方はお手数ですが、 plant@brc.riken.jp までご連絡ください。

---●ミナトカモジグサ (*Brachypodium distachyon*) の形質転換技術の整備について●---
当室で取り組んできた、パーティクルガン法によるミナトカモジグサの形質転換について報告した論文が Web 公開されました。

<http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0176161714001096>

また、パーティクルガン法に加えて取り組んできた Agrobacterium 法においても、形質転換効率の向上に成功しています。そこで今年度の技術研修では、ミナトカモジグサの栽培に加えて形質転換技術の実習を行う予定です。本件についてのご質問やご要望がありましたら、 plant@brc.riken.jp までお願いします。

-----● ICAR2014にて発表を行います ●-----
第25回国際シロイヌナズナ研究会議 (ICAR2014) は7月28日から8月1日までカナダのバンクーバーにて開催されます。

<http://arabidopsisconference2014.org/>

ICAR2014のポスター会場ではポスター発表も行います。詳細を次号に掲載いたしますので、会議に参加される方はぜひお立ち寄りください。

-----● 技術研修に関するお知らせ ●-----
平成26年度の技術研修を8月~9月に開催します。詳細な日程等につきましては決まり次第、ホームページ並びにメールにてご案内します。ご関心のある方は、plant@brc.riken.jp までお知らせください。

-----● テクニカルサポート (No. 12) : ミナトカモジグサの形質転換について ●-----
シロイヌナズナと異なり、ミナトカモジグサの形質転換にはイネなどと同様、培養細胞を使います。まず未熟胚より再分化能力を有する脱分化細胞 (カルス) を誘導し、細胞塊に対してパーティクルガンや Agrobacterium により DNA を導入します。続いて選択培地上で形質転換に成功した細胞の増殖を行った後に、分化誘導培地上で個体を再生させます。

このため、ミナトカモジグサの形質転換を行うにあたっては、細胞の取扱いに必要な無菌操作技術と培養設備・器具をまず準備することになります。また形質転換効率

の向上には、高品質の未熟胚が得られるよう栽培条件の至適化も重要です。当室では、これらノウハウについても技術研修などにより普及を図ってゆきたいと考えております。

● お願い ●

リソースの寄託や提供に関わるご相談、ご質問は、お気軽に plant@brc.riken.jp までお送りください。

❀*:・'° ❀° '・*::. ❀.:*:・'° ❀。.:*:。.:*❀

理化学研究所バイオリソースセンター

実験植物開発室 提供係

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-1-1

TEL 029-836-9067/FAX 029-836-9053

MAIL plant@brc.riken.jp

HP <http://www.brc.riken.jp/lab/epd/>

❀*:・'° ❀° '・*::. ❀.:*:・'° ❀。.:*:。.:*❀